

第20回 小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設運営連絡会 会議録（要旨）

開催日時	令和6年11月16日（土）午前10時30分から午前11時50分まで
開催場所	資源物中間処理施設エコプラザスリーハーモニー 2階研修室
出席者	地域住民：グランドメゾン玉川上水センタースクエア管理組合、 タカギ第2青梅橋マンション自治会 衛生組合：事務局長、業務課長 事務局：業務課業務係長、業務課施設係長、業務課主査
欠席者	地域住民：グランドメゾン玉川上水イーストスクエア管理組合、グランドメゾン玉川 上水ウエストスクエア管理組合、桜が丘森永住宅自治会、警視庁有家族待 機寮東大和住宅、プラウド地区自治会、オーベルグランディオ東大和管理 組合
傍聴者	2名
議題	(1) 資源物中間処理施設の操業状況について (2) 意見交換 (3) その他
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第20回運営連絡会次第 ・第20回運営連絡会メモ ・資料1-1 資源物中間処理施設の操業状況について（令和6年5月分） ・資料1-2 資源物中間処理施設の操業状況について（令和6年6月分） ・資料1-3 資源物中間処理施設の操業状況について（令和6年7月分） ・資料1-4 資源物中間処理施設の操業状況について（令和6年8月分） ・資料1-5 資源物中間処理施設の操業状況について（令和6年9月分） ・資料1-6 資源物中間処理施設の操業状況について（令和6年10月分） ・資料2 資源物中間処理施設 資源物年間搬入・搬出比較表 ・資料3 資源物中間処理施設 令和6年度 点検・整備予定（実績）表 ・資料4 資源物中間処理施設 令和6年度 臭気測定結果 ・資料5 資源物中間処理施設 令和6年度 資源物展開検査結果 (容器包装プラスチック・ペットボトル)
審議経過	<p>開会 (衛生組合) 組合出席者の紹介を行った。</p> <p>1 あいさつ (事務局長) 第20回資源物中間処理施設運営連絡会開催に当たり、あいさつを行った。 (業務課長) 11月1日付けで新たに業務課長としての着任した旨、あいさつを行った。</p>

2 議題(1) 資源物中間処理施設の操業状況について

(業務課主査)

第20回運営連絡会メモにより、「(3) 各種測定結果、③ 展開検査」までの説明を行った。

(地域住民)

資源物の展開検査について、24日と29日に実施ということだが、東大和は24日だけで29日はやらなかったのか。

(業務課施設係長)

1台ずつ、搬入状況もあるので、搬入日に合わせて実施した。

(地域住民)

今までもそうであったか。全然減らない。残渣はなぜずっと減らないのか。最初から残渣目標値を0パーセントと言っていたが、それは実質的に無理である。ここを建設するときの目標値が10パーセント未満だったと記憶しているが、正しいか。建設時の目標値をご存じなければ、一度確認して、その目標値に向かって努力してもらいたい。ずっとここで傍聴しているが、結局ごみ袋が残渣の中に含まれているということが、言い訳にしか聞こえない。ごみ袋が原因で残渣が減らないとしか聞こえない。実際問題、ごみ袋の量は残渣の何パーセントに当たるのか。

残渣を10パーセント以下にしてもらいたいが、10パーセント全てがごみ袋であれば、それ以上は減らない。まだ減る余力があるものか、残渣に含まれるごみ袋の割合を知りたい。

(業務課施設係長)

選別で取り除いた袋類については、単に汚れているものと収集袋を分けて手選別しておらず、収集袋の量を現状で測ることはできない状況であり、その点をどうするかは今後研究が必要である。

(地域住民)

東大和市は不燃ごみの袋と色分けしていない。色分けしていれば、販売店におけるごみ袋の販売量から、容器包装プラスチックのごみ袋の総量が分かるかと思っただ、色分けしていないのであれば分からない。小平市が不燃ごみの袋と色分けしているのであれば、販売したごみ袋の重量が分かるのか。

(事務局長)

販売量までは分からない。ただ、小平市の不燃ごみは月1回であり、1セット10枚を購入しても月1回しか使用しない。現在の分別の場合、1ヶ月で1袋を満杯にすることは難しいと思うので、10枚買うと2年ぐらいつつもかもしれない。

(地域住民)

一概に家に保管するのはかさばるので減多になく、5リットルの小さい袋でこまめにごみ出ししているのではないか。個人的な意見ではあるが、残渣率10パーセントを目指してもらいたく、残渣に含まれるごみ袋の割合を知りたい。

(事務局長)

承知した、次回までには。年間770トンある残渣のうち、大部分が指定収集袋で

はないかと思う。ただし、残渣を分けて集めてはいないので、サンプル抽出した推定値としては出せるかも知れない。

(地域住民)

調査をした結果、残渣の全てがごみ袋であればすっきりするが、まだそういうレベルではないのか。

(事務局長)

そうではないが、展開検査の結果、残渣率が10パーセントを切る地区が稀にある。

(地域住民)

地区によって残渣率の良し悪しがあるかと思うが、地区毎に個別のアプローチはできないのか。

(事務局長)

武蔵村山市が有料化を実施して出し方が変わった。以前の容器包装プラスチックは排出後、まず民間事業者を集めて分別してから、スリーハーモニーに運搬していた。そのため、市民の出し方がまだ安定していない。

それと、収集は複数の地区を含む広範囲を対象とするため、どこの地区かを特定するのは困難である。ピンポイントで特定地区の収集をお願いするしかないが、ごみはデリケートなので、中身が判るような調査は困難である。ただ、仰る通り、そういった分析も必要かと思うので、今後3市との調整事項で出てくるかもしれない。

(地域住民)

ごみ袋をスーパー袋にして、1枚ずつ買えるようにしたら、容器包装リサイクル法に対応できるのではないか。例えば、イトーヨーカドーでスーパー袋を1枚買って容器包装プラスチックとして出す、そのような手法を実践した地区があると聞いたことがある。同様のやり方を実践すれば、ごみ袋を容器包装プラスチックとして出せるのではないか、と考えたことがある。

(事務局長)

ごみ袋が容器包装プラスチックもしくは製品プラスチックかというのは見解が分かれる。確かに地方でそのような市町村があるが、その市町村の全ての店舗にに応じてもらう必要があり、実験的な要素が強くなってしまう。画期的な話で一時期話題になったことはあったが、東京都内では馴染まないのではないかと思う。

(地域住民)

容器包装プラスチックの再資源化業者が決まったようだが、容器包装プラスチックは逆入札だったか。購入してもらっていると記憶しているが、つまりは、当組合のベール品質が良いということか。

(業務課主査)

逆有償はペットボトルのことである。業者が買い取ることを逆有償と呼び、ペットボトルの入札は年2回行われる。再資源化業者と取り引きのある半年間のうち、最低1回の展開検査を行うが、検査結果は常に「A」ランクであり、非常に綺麗なペットボトルを引き渡している。そのため、当組合のペットボトルの買い取りを希望する業者は多くいるかと思う。

(地域住民)

ペットボトルは逆有償とのことだが、容器包装プラスチックはどうか。

(業務課主査)

委託料を支払って処理してもらっている。

(地域住民)

それは綺麗であれば安くなるのか。

(業務課主査)

そういうわけではない。

(地域住民)

メモの3ページ目、スリーハーモニーNEWSについて触れてもらいたい。

(業務課主査)

メモの「4 その他、(1) 運営連絡会の情報発信について」について説明を行った。

(地域住民)

これまで広報えんとつは3市全域に配布されていると思っていたが、令和5年度から全戸配布になったということは、それまで配布されない地域があったということか。

(事務局長)

そのとおりである。一部の周辺地域を対象に、新聞の折り込みに含めて配布していた。そのため、新聞を取ってないお宅には配布されていなかった。地域住民にはポスティングしていたが、それだけではよろしくないと判断し、費用はかかるが、3市全域に配布することにした。

(地域住民)

新聞の折り込み配布ではなく、ポスティング方式で3市全域に広報えんとつが配布されるようになったのは良いことである。それで、スリーハーモニーNEWSがなくなるということだが、広報えんとつ地域版もなくなるのか。

(業務課施設係長)

地域版はなくなる。引き続き、全域版と地域版である。

(地域住民)

中島町と桜が丘に同じようなごみ処理施設があつて、一方には広報えんとつ地域版が、こちらにはスリーハーモニーNEWSがあつた。中島町の地域版は継続するが、こちらの配布はなくなる。何が言いたいかという、ごみ処理施設周辺の住人として、同じように扱ってもらいたい。えんとつ地域版に常に目を通して、面白く参考になっている。一方で地域版が残るのに、スリーハーモニーNEWSをなくして広報えんとつに統一するのはなぜか。

(事務局長)

そういったご意見もあるかと思う。地域版とスリーハーモニーNEWSの内容を比較して、スリーハーモニーNEWSは広報えんとつ全域版で伝えるべき内容が多いと判断した。費用対効果の観点から、スリーハーモニーの内容を3市全域に伝えるのに、全域版が十分その役割を果たせるという分析をした結果である。

(地域住民)

広報えんとつ地域版の内容にはずっと疑問があった。地域版には各種報告と併せて、ごみ処理施設を維持する努力についてご理解くださいといった内容に対して、スリーハーモニーNEWSは単に検査や測定の結果報告と併せて、ごみの減量を訴えるだけであり、地域版と比較し同じような内容を取り上げていなかった。それなのに、スリーハーモニーNEWSだけ廃止になるのは理解できない。

(事務局長)

まず、桜が丘にこのような会議体（運営連絡会）があるように、中島町にも連絡協議会という会議体が存在し、会長、副会長が中心となって運営しており、組織体が違う。また、中島町は焼却熱を使ったサーマルリサイクルをしており、大気もスリーハーモニーに比べると非常に大きい要素である。ダイオキシン、臭気、騒音、振動などがあり、会議体を通して地域にお知らせする必要のある内容が多く、そのようなことを従来からやっている。

一方、スリーハーモニーについては、騒音、振動はほぼなく、臭気が外に漏れたことも一度もなく、数値的に悪いこともない。ダイオキシンもなく、二酸化炭素が増えることもなく、中島町のように周辺地域にだけ影響があるようなことが桜が丘ではない。そのため、こちらの様子については3市全域にお知らせする内容であり、全域版で周知できると内部で判断した。

(地域住民)

それでも、同じ住民として公平に扱ってもらいたい。それと、中島町の連絡協議会は煙突の高さの2倍の範囲が対象地域になっていると理解するが、新ごみ焼却施設で煙突が低くなると、中島町の連絡協議会も縮小するのか。

(事務局長)

その点はまだ話し合っていない。また、会長、副会長がおり、我々の一存では決められない。そういった話が会長、副会長からあれば検討するが、今のところはない。

(地域住民)

連絡協議会の範囲については、違う地域の方が進言した結果、収集車の通る生活道路に当たる地域も含めることになり、現在も「東大和ハイツ」だけ含まれていると思う。仮に煙突の高さが低くなっても同じ範囲を対象地域とするのであれば、この辺の地域は連絡協議会には含まれないのか。

(事務局長)

まだ考えていない。対象地域を拡大しようとしても、自治会の方から辞退する場合もある。その点については、会長、副会長の意見を踏まえ、慎重に進めていくものと認識している。

(地域住民)

会長、副会長が範囲や対象地域を決めるということか。

(事務局長)

いえ、我々はそれを意見として受け止め、話し合いの中で決めていく。

(地域住民)

前回の運営連絡会の参加人数がゼロであったのには驚いた。それはこれまでの運営

連絡会での報告がチラシ程度の内容で、3市がごみ減量に向けてこういった努力をしているといった報告もないから、これだけ参加者の興味が無くなったのではないか。

(事務局長)

そういったご意見はこれからもいただきたい。我々も気付けなかったり、見落としやすい視点であったりすることが多く参考になる。こういった場でいただいたご意見はフィードバックを念頭に、検討が必要なものは持ち帰って検討するので、この場で言ってもらいたい。

(地域住民)

広報えんとつを見ていると、3市のごみ減量に向けた努力が伺えるが、スリーハーモニーはごみ量がずっと横ばいであり、減量へのアピールもない。東大和市は市報や「ごろすけだより」から情報を得ることができるが、他の2市が減量に向けてどういった努力をしているのか全く分からない。その辺の情報はないだろうか。それと、汚れた容器包装プラスチックと収集袋を含まない可燃残渣(可燃ごみ)の手選別時の基準を知りたい。

(業務課施設係長)

手選別室には、可燃残渣の基準となる見本が置いてある。手選別作業員はそれを基に細かく手選別を行っている。

(地域住民)

その基準を3市で共有しないと、可燃残渣がスリーハーモニーに入ってきてしまう。例えば、ラーメンカップはいくら洗っても臭いしヌルヌルが取れない。こういったものを可燃もしくは容器包装プラスチックとすべきか迷う。手選別時の基準が分かれば、ごみを出す時点で可燃若しくは容器包装プラスチックとすべきかが分かる。

(事務局長)

小平市でもそういった質問がよくある。小平市の場合、軽くすすいでも汚れが落ちないものは可燃ごみと案内している。例えば、ラーメンカップは水で軽くすすいで、汚れが落ちたか落ちないかでご判断をお願いしている。

(地域住民)

先日、今年3月の小平市議会の特別予算委員会の会議録を読んだ際、容器包装プラスチックを燃やした方が環境面とコスト面で良いのでは、と質問された議員がいた。小平市の回答は、それは衛生組合だけでなく3市共同でやっている、というような回答であった。いち市民として、容器包装プラスチックは汚れを落として、資源として出すべきという気持ちが強い。そうなると、多少汚れていても容器包装プラスチックで出す。そういったことをきっちり分けて、アピールできないか。例えば、可燃残渣は何台分運んで、何トン焼却している、だから、汚れた容器包装プラスチックは出さないで、といったように。

(事務局長)

アピールはしているが、収集袋も含めて可燃残渣として焼却施設に運搬しており、汚れた容器包装プラスチックだけの数値を出すのは難しい。例えば、不適物が入っていて手選別が大変である、注射針、リチウムイオン電池、トンカチや包丁などが入っ

ていることもあり、怪我につながるといったアピールはしている。そういった状況のなかで、今後こういった方向に進めるべきかは、各市が考えていくことである。

(地域住民)

では、3市がどのようなことを考えていて、何を実践したら減量できたかが知りたい。また、減量に効果のあるものがあれば、3市に展開してもらいたい。あともうひとつ、紙ごみは匂いがあると資源で出せないが、容器包装プラスチックの匂いはどうか。

(業務課施設係長)

先ほどのヌルヌルもそうだが、手選別ではヌルヌルを触って確認せず、目視で汚れを確認のうえ選別している。流れるコンベヤの中から、少しの汚れで選別するのは難しい。例えば、汚れたペットボトルは底が茶色いが、それを匂いで選別はしていない。

(地域住民)

瓶などの資源物でも、基本的に匂いがあるとアウトだと思うが、香水瓶は洗っても匂いが取れないし、石鹼のパッケージは可燃ごみとなっている。容器包装プラスチックを出す際も、綺麗そうに見えるが、匂いがあるからどうしようかと迷う。

(業務課施設係長)

ご案内している通り、軽くすすいで汚れがついてなければ資源である。

(地域住民)

そこまで割と大まかに分別しているのに、残渣が出てしまうのは何故なのか。

(事務局長)

残渣は汚れた容器包装プラスチックだけではなく、不燃物とかそもそも可燃物、そういったものが多く、汚れているものは少ない。

(地域住民)

それは困る。スリーハーモニーNEWSは、廃止でもう決定しているのか。

(事務局長)

その通りであり、内容を充実させて広報えんとつに載せる。併せて、ホームページリニューアルも検討している。ホームページを通してさらなる情報提供を検討している。そのなかで、様々なご意見をいただいて拡大していく。縮小のための廃止でなく、拡大するための変更と考えている。

(地域住民)

桜が丘の運営連絡会は年2回しかないので、会場を設けてみんなで団結するのは結束がなく難しいと思うが募集はしたい。運営連絡会の参加者は少なくとも、毎回決まった傍聴人はいるので、傍聴人から意見をもらうという案はないのか。

(事務局長)

ここの参加者が少ないので、それも考えた。ただ、この会が始まった経緯があるので、我々の一存では決められない。運営連絡会の参加者に諮って、そういう会の方が良ければ、検討しても良いのではないかと。ただそうになると、多くの方から様々な意見を頂戴するので年2回ないし、臨時会は何かあった際にやると思うが、それを年1回、例えばこの施設の事業報告会のような名称でやるとか、そういった方が人が集まるの

ではないか。

(地域住民)

私もそう思う。でも、年1回は少ない、2回はないと。

(事務局長)

そうすると、半年の期間で皆さんからの全ての意見に対するフィードバックは難しい。そうすると、運営連絡会という形でやる、若しくはこういった会をやらなくても、衛生組合も質問を随時受け付けるというのものもある。

(地域住民)

問題の質問が出たことがきっちり開示されて、それに対する回答を知ることができるシステムにしてもらいたい。

(事務局長)

そういったご意見が出されれば、決して無視はしないし、検討する余地もあると思う。ただ、ところどころ来る質問に対して、事務の都合上、全部を開示はできない。なので、ある程度大きな会議でご質問をいただき、それに対して回答を公表するというやり方が望ましい。

(地域住民)

では、質問募集かなにかをした方が良い。例えば、容器包装プラスチックについて、年に1、2回でも質問募集を行って、それを公表することはできるか。

(事務局長)

そうすると、近隣の方が最も身近であるので、やはりこの運営連絡会で各自治会の代表者が地域住民から集めた意見を代表意見として、この場でも出してもらい、議事録を作って回答となるかと思う。

(地域住民)

そう思って今日この場を借りたのだが、理事会で中島町と最も違うのは、会長はその方の意見で割と長く居れて、頻繁にころころ変わるものではないかと思う。一方でマンションは毎年1回の選任があり、それもなりたい人になるわけではなく、何回かの輪番で回ってきてしまう。なので、再び輪番で回ってきたら、くじ引きで代表を決めることもある。そうすると、こういった状況が発生する。理事会自体も頻繁に開かれるわけでもなく、理事会で容器包装プラスチックに関して意見を求めるのは難しいと思われる。

それで、本日言わせてもらいたいのは、理事会で会長が決まらないうちに代理での出席を理事会にお願いしたつもりだったが、理事会が動かなかったためか、管理組合から衛生組合に連絡がいつってしまった。マンションではそういった事態が起きてしまう。だから、マンション側で集めるよりは、広報での募集の方が早い気がする。

(地域住民)

私はこのスリーハーモニーの計画が始まった当初からずっと参加している。当時はかなりの数の説明会があって、反対者も多くかなり盛り上がっていた。私は市役所によく聞きに行き、色々説明を受けた。当初の計画は地下であって、当時の図面は今も持っている。ご存じないかも知れないが、当初は地下という構想があったが、結局

今のようになった。

それで、私がここに本格的に関わった周囲700m、800mの環境問題のこと、当時は杉並病がすごく問題視された時代だったので、住民の安全、環境問題から守るために私はずっと今までやってきた。だから今でもここに来ている。やはりこういう会議をやる時は環境問題、環境汚染などがないことを確認するのが基本スタンスで、ずっとこの会議に参加している。だから、特別なことがない限りは参加して、データを見て問題がなければとりあえず大丈夫だと思う。もし、異常があればきちんと報告してもらえれば、私はそれでも良いと思うし、今回のようにごみ問題について話し合うことも現実的であると思う。

私が思うに、先ほど発言されていたごみについては、私が住んでいるマンションでは、ある一定期間、ごみの出し方や状況を役員が見る。収集業者もちゃんと見るので、不分別のごみが残る。それを92世帯にフィードバックして、ごみを出した人が引き取って、次回から注意してもらい、というやり方をやっている。もし、収集が特定の範囲で決まっているのであれば、そこに対して徹底的に何かできれば、改善に向けた行動ができるのではないかと思う。

それと別件だが、資源物の引き渡し先が半年に1回の入札ということだが、ここが操業開始して何年か経過したので、A4横の資料などで落札した経緯や理由の分かる資料を作ってもらいたい。それと、契約は随意契約なのか、良く分からないのだが。

(業務課主査)

日本全国の再資源化業者が容器包装リサイクル協会を通じて入札している。

(地域住民)

いきなりここに決まったのではなく、どういう理由で決まったのか経緯が分かる資料があれば方が良い。

(地域住民)

選んでもらう際の逆入札は、高く買い取ってくれるところを優先するのか、それとも、衛生組合がリサイクル方法などを基準に自ら業者を選ぶのか。

(業務課主査)

衛生組合が入札先を選ぶことはできない。容器包装リサイクル協会を通じて再資源化業者が決定する。容器包装リサイクル協会は財団法人で、来年度の容器包装プラスチックとペットボトルの引き渡し量を申告することで申し込みが行われる。それと、毎年実施される展開検査の結果を協会が把握しており、それが入札時の参考になっている。

(地域住民)

そういった情報も協会に報告するか。

(業務課主査)

協会は展開検査の結果を把握していると思う。展開検査は義務で、必ずやることになっている。

(地域住民)

どこでもやっているのか。

(業務課主査)

展開検査は我々も足を運んで実際に立ち合う。展開検査の結果は、再資源化業者が把握できる仕組みになっており、それを参考に当組合のペットボトルに高く入札しているのではないかと思う。

(地域住民)

衛生組合ペットボトルが優秀であることが分かった。

(地域住民)

私からはそのぐらいで、要するに、環境に影響がなく、悪いものが出なければ良い。

(地域住民)

参加者が少ないのは無関心ではあるが、言い換えれば問題がないことなので、素晴らしいことだと思う。

(事務局長)

先ほどの容器包装プラスチックの汚れの話だが、東大和市のごみ対策課が出前講座を実施しているので、関心のある人が集まれば、出前講座を依頼できるかと思う。我々はあくまで中間処理の担当であり、知識として把握はしているが、東大和市のごみの出し方は東大和市の担当が詳しいはずなので、そこに尋ねてみるのもひとつの手だと思う。

(地域住民)

何かしてもらいたくても参加者が少なく、頼みようもない。

(地域住民)

最初の頃はもっとデータが多かった。情報が減っていくのは、データが変わらず安定しているからではないか。

(事務局長)

特に大きな問題は起きていない。

(地域住民)

環境で大きな問題は起きてないが、この施設を建設した際の人口とごみ量の予測値は最初の予測値から大きく外れていないか。

(事務局長)

人口統計は減少傾向が若干ずれて先送りになっている。ただ、現在も武蔵村山市は人口が減っており、東大和市と小平市は多少増えている状態である。当時どういう発表があったか分からないが、当初の統計からずれていると思う。

(地域住民)

この後、この施設が資源物で満杯になる心配はないか。

(事務局長)

容器包装プラスチックは減少傾向で、ペットボトルは処理能力に余力があるので、まだ全然大丈夫であり、ご安心いただきたい。

(地域住民)

前回、施設内で車がぶつかる事故があったと思うが、問題なかったか。8月だったと思うが、環境問題でなく、壁にぶつかったとか、何か挟まったとか。

(事務局長)

修理できる範囲の事故であって、人が巻き込まれる大きな事故ではなかったので、ご安心いただきたい。

(地域住民)

分かった。

(業務課主査)

第20回運営連絡会メモにより、「(2) 操業状況の報告について」説明を行った。

(地域住民)

問題ないと思う。下半期の確認を翌年の5月にやっているが、日程をずらすことでもう少し早めに報告が聞けるのか。

(業務課主査)

下半期の内容を10月から3月に変更した場合、3月に数字が確定後、情報を集めて報告準備をするため現状と変わらなく、このまま5月と11月でと考えている。

(地域住民)

年2回の開催で1、2ヶ月ずれても問題ないかと思ったが、それは大丈夫か。

(業務課主査)

ずっと5月と11月を定例でやってきており、時期を変えずにやっていくのが参加者の皆さんのご都合的にも良いかと考えている。ちょうど資料の「(3) 令和7年度の運営連絡会開催日程(案)」と話しである。

(地域住民)

開催日程のお知らせの手順だが、登録者の自宅に先に資料が届くのか。

(業務課主査)

資料は当日配布である。

(地域住民)

登録しておけばメールで日程連絡が届くようにできないか。参加者がこれだけ少ないのがとても不思議で、メールや手紙で参加の有無を確認しているのか。

(業務課主査)

直接ご自宅を訪問して、お手紙をポストに投函して日程をお知らせしている。

(地域住民)

それで、これだけの参加者か。

(業務課主査)

例えば、マンションであれば代表者と専任者の2人がいるので、一応2通のお手紙を管理組合ポストに、もしご住所とお名前を把握していれば、その方のご自宅ポストに投函している。

(地域住民)

前回傍聴した際に参加者がゼロで、改めて開催日を参加者と調整するという話だった。ずっとそれを待っていたが、しばらく経った頃に書面開催とホームページにあった。参加者から改めての開催は不要との確認を取ったうえでの書面開催だったのか。

(業務課主査)

申し訳なかった。参加者への確認はしていなかった。

(地域住民)

参加しなかった人たちが、改めて開催日の確認を受ければ、前回参加しなかったから次は参加しようという気になるかと思った。だから、せめて聞いてもらいたかった。

(業務課主査)

申し訳なかった。

(事務局長)

前回居合わせなかったため、そういった経緯を確認していなかった。近い日程でもう一度やるという手もあったが、人数が集まる感触がなかった。それであれば、書面開催にしてホームページで公表すれば、広く内容を周知できると判断して指示を出した。申し訳なかった。

(地域住民)

いったん理事会を離れると、理事会に意見を挙げてそれがマンションの代表意見となるとの、直接衛生組合に意見を申すのでは、こちら側の労力は一緒である。それでも、意見はマンション代表として出した方が良いか。

(事務局長)

そうしていただきたい。連絡会と同じ様相を呈したいので、代表の方に来てもらって、意見をいただくという形を取らせてもらいたい。

(地域住民)

マンションには専任者と代表者がいるが、代表者は選任毎に変わる必要があるのか。マンション管理組合の代表者イコール理事長と思っているか。

(事務局長)

そこに関してはなんとも言えないが、運営連絡会が始まった経緯があるかと思うので、どのように定めているのかは細かく見ないと分からない。内部の要綱などで、代表者の会議ということ定めているのではないか。

(地域住民)

確認したいことがもうひとつ、運営連絡会会議録の出席者の欄に地域住民とあり、マンション名の記載がある。一方で連絡協議会の会議録を見ると、出席者の欄に自治会名の記載があり、さらにその中に「地域住民」と書いてあるが、載せられない団体名なのか、単に打ち間違いなのか、それともたまたまそこにいた地域住民が参加できたのかを確認したい。

(事務局長)

代表者がもう1人連れてくるのが稀にある。代表者と副代表者なのか、詳しくは分からないが、運営方法はこちらと同じなので、大きな意図はないかと思う。

(地域住民)

同じ団体の仲間を連れてきて一緒に入れるのであれば、専任者に同行して私も参加したいと考えるが。

(事務局長)

そういうことではない。例えば、次回代表者になるので参考のために連れてきたと

言われたら断る理由がない。今回の運営連絡会も同様に、次回の理事会代表者が決まる前だが、次回代表者ということで受け入れており、それと同じである。

(地域住民)

地域住民でなくとも、衛生組合に聞きたいことがあればなんでも受け付けてもらえるのか。併せて公表もするのか。

(事務局長)

ご質問は受け付けて聞かれたことにはお答えはするが、全てをホームページ上で公表することのお約束はできない。

(地域住民)

答えてもらった内容をこちらで発信するのは自由か。

(事務局長)

そのように事前に申し出ただけであれば、その内容で判断したい。例えば、業者や業者内部のことをお答えした場合、業者にとって対外的に公表されては困ることもある。加えて、個人名であるとか。

(地域住民)

そもそも、そちらが個人名や業者名は出さないと思うが。情報公開請求しても黒塗りだし。

(事務局長)

全ての回答について、公表して良いという許可はなかなかできない。

(地域住民)

承知した。例えば、ごみの出し方を聞いたとして、それは公表しても良いか。

(事務局長)

大丈夫だとは思うが、ごみの出し方は市の業務である。仮に衛生組合が回答したとしても、必ず市に確認してもらいたい。

(地域住民)

ごみの出し方とかも広報えんとつで出していくと思うが。

(事務局長)

広報えんとつより市報ではないか。ごみの出し方は市が決めることで、衛生組合は、例えば、リチウムイオン電池について補足的な情報発信を広報えんとつで付け加えていきたい。

(地域住民)

スリーハーモニーNEWSがなくなるのであれば、ぜひ容器包装プラスチックのこともたくさん載せてもらいたい。

(事務局長)

要望として承る。

(地域住民)

よろしく願います。